

## 橋本市北部、柱本地域の美味しい棚田米

みなさん、こんにちは。

今月の皆さんの給食に、橋本市北部の柱本地域で栽培された棚田米が使用されます。

昨年、皆さんが住む、泉大津市の市長様が、橋本市に来ていただき、学校の給食に使うお米を、将来訪れるといわれる世界的な食糧不足でも、安心して、皆さんの給食のお米を確保できるよう、近くの自治体で連携していきたいとご提案があり、1年間以上の期間がかかりましたが、お試しではあります、皆さんに、橋本の棚田米を食べていただけるようになりました。今日は、橋本市のお米について、説明したいと思います。



### ○橋本は農業の盛んな田園都市

和歌山県北部に位置する、果樹を中心に農業が盛んな田園都市です。

南海なんば駅から45分の利便性もあり、住宅地が広がります。

面積は、泉大津市の約10倍の130平方キロメートルですが、人口は少なく6万人で、その面積の多くは、山林や農地で占められます。



### ○後継者不足が深刻

橋本市の主力の農産品だった柿は、次第に販売量が減り、全体的に農家の所得が減って、農家の後継ぎが不足しています。

橋本は、傾斜がある棚田や段々畑が多く大型効率化に遅れ、次第に、農業をやめた休耕地や、耕作放棄地が目立つようになってきたため、橋本市では、様々な支援策を実施し、農家育成に努めています。



### ○お米の消費が減って、荒れ地が広がる

日本では、縄文時代末期に稲作が伝わってから2000年以上の間米作りが行われてきました。

以前は、お米は主食で、お金の役割をするぐらい重要な役割を持っていましたが、近代化や食生活の変化により、コメの消費が減り、水田が作られなくなってきました。



### ○みんなで見直したい、農業の役割

農業に直接関わらない人たちにとって、農地が荒れてしまうことは、あまり関心がないかもしれませんが、町中でイノシシやアライグマなどを見かけたり、雑草が原因の花粉症になったりすることは、荒廃した農地が増えていることが一因といわれています。

農地には農産物を生み出す役割だけでなく、雨水を一時的に蓄えるダムの役割や、祭りなどの文化の伝承、きれいな景色の形成などのさまざまな働きがあり、人間だけでなく、さまざまな動植物にとって「恵み」となり、これは「多面的機能」といわれています。

### ○柱本の人たちが育ててくれた棚田米

皆さんに食べてもらうお米は、柱本地域の方々が、皆さんのための、休耕地を借りて、草刈りしたり、耕したりして、新たに生産していただいたお米です。今回残念ながら、オンラインでの説明となりますが、取り組みと意思をお伝えしたいと思います。

今回は、お試しですが、皆さんの感想を聞かせてもらって、今後、だんだん橋本市のお米の量を増やし、橋本の農地がよみがえる。そしてその田畑からできたお米や野菜を皆さんに届けられる関係にしていきたいと思っています。

